
第5回アニメキャラ限定 脱出ゲームDERO!

よしかず

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第5回アニメキャラ限定 脱出ゲームDERO！

【ΖΖード】

N1056X

【作者名】

よしかず

【あらすじ】

今回は、生徒会役員共の桜才学園生徒会とSKET DANCE の開盟学園生徒会が対決。

果たして勝つのはどの生徒会か・・・。

参加者の紹介（前書き）

今回で「JのDERO-シリーズ」はひとまず終了となります。

参加者の紹介

今回は生徒会役員共の桜才学園の生徒会とSKET DANCEの開盟学園の生徒会が対決。
各高校の生徒会同士が対決する。

参加するアニメキャラは、

生徒会役員共・桜才学院生徒会チームからは、生徒会長の天草シノ・副会長の津田タカトシ・書記の七条アリア・会計の萩村スズ。
SKET DANCE・開盟学園生徒会チームからは、生徒会長の安形惣司郎・副会長の椿佐助・会計の丹生美森・書記の浅籬菊乃・庶務の榛葉道流。

果たしてどちらの生徒会が勝つて、賞金獲得ステージに挑むのか・・・

本番前・・・(前書き)

DEROが出演する前の生徒会役員共の生徒会とSKET
CEの生徒会です。

本番前・・・

ある日、桜才学園高等部に1人の男性がやつてきた。

来たのは日本テレビのスタッフだつた。

そのスタッフが生徒会に用があると言い、生徒会の4人はスタッフを招きいれた。

シノ「これはこれは、日本テレビのスタッフさん、ようこそお待ちしてました。」

生徒会長の天草シノはスタッフに挨拶をした。

タカトシ「でも日本テレのスタッフがなぜこの桜才高校に・・・。」

副会長の津田タカトシがそう言つとスタッフは・・・、

スタッフ「あなた方生徒会が来週の脱出ゲームDERO!に出演することになりました。」

タカトシ「ええ～～～つー？」

タカトシがびっくりする。

そしてシノが、

シノ「実は数週間前、アニメ限定でD E R Oの出場者募集の情報がここに入つてな、私が応募したのだ。まさかうちの学校の生徒会が本当に出演することになるとはな・・・。」

タカトシ「あれって確か、棒に上に立つたり、石像に追いかけられたり、水の中に入れられたりとか、閉じ込められた部屋の中でクイズに挑戦する番組だつたはず・・・！」

書記の七草アリアは、

アリア「まあそれはなんかわくわくしそうですね。」

会計の萩村スズは、

スズ「このH Q 1 8 0の私ならどんな問題でも解いてみてやる！」

2人は出る氣まんまんのようだ。

タカトシ「まあ出るのはいいとして、なんで日テレのスタッフさんがわざわざここに来たのかを教えていただきたいのですが・・・。」

スタッフ「あなた方には、対戦相手を指名できる権利を『えます。もちろんアニメ限定です。』

スタッフがそう言った。

タカトシ「対戦相手を指名・・・。」

これを聞いてタカトシは口が急に止まる。

スタッフ「さあ何のアニメと対決します?」

シノ「対戦相手か・・・、実は前々から顔を合わせたかったしたいアニメがいましてね。それは、SKET DANCEの生徒会の者たちです。」

シノは対戦相手に開盟学園の生徒会を指名した。

スタッフ「あの、それでいいんですか?スケット団の方じゃなくていいんですか?」

スタッフが言った。

シノ「生徒会の相手は別の学校の生徒会の方がいいでしょう。この対決でしたら、どちらの学校の生徒会が強いのかがアピールできます。」

スタッフ「わかりました。では後日その事を開盟学園の生徒会に知らせます。但し、相手方がOKと言わないと出演の承諾はできません。もしOKと言わなければ、こちら側が対戦するアニメを指名します。今でしたら第2希望・第3希望も声を聞かせてもらいますが・・・」

シノ「開盟学園の生徒会一本で行きます。ダメなら他のアニメでもかまいません。」

スタッフ「わかりました。では私はこの辺で・・・。」

スタッフは帰つて行つた。

タカトシ「会長、いいんですかあの学校で・・・なんかあの生徒会硬そうな気がしますし。」

シノ「大丈夫だ津田。あの学校の生徒会長なら承諾してくれる。」

次の日・・・開盟学園の生徒会に1通の手紙が届いた。

菊乃「会長、日本テレビの関係者から手紙が届いています。」

生徒会書記の浅籬菊乃が生徒会長の安形惣司郎に手紙を渡す。

安形「何々・・・『対戦相手が、あなた方開盟学園生徒会と今度の1週間後の脱出ゲームDERO!で対決したいの』というアニメがいるということで、番組出演の推薦させていただきました。出演のオファーがOKでしたら、本番4日前までに日本テレビに連絡をしてください。それまでに連絡がなければ拒否してとさせていただきます。日本テレビ社員 × 男』だってか、おもしろそうじゃないか。」

これを聞いて、副会長の椿佐助は、

椿「ばかばかしいです！なんで僕ら生徒会があんな番組に出演しないといけないのですか！僕は断然拒否です！」

すると安形は・・・

安形「何々・・・対戦相手『スケット団』・・・？」

これを聞いて椿はピクッとする。

椿「スケット団だと・・・？」

安形「こないだ確かにスケット団は、べるぜバブと組んでDEROに挑戦したんだよ。なかなかの好成績だったって言うぞ。きっと自分たちの強さをアピールするために俺達生徒会に挑戦してきたんじやないのかな？」

これを聞いて椿は闘志を燃やす。

椿「きっとこないだのビバゲーの屈辱をこのDEROでリベンジしようとするものだな！ わかつたぞ藤崎！」

これは生徒会に対する挑戦状だな！ 生徒会の強さを番組に見せびらかしてやる！」

榛葉「じゃ、出演OKといつことで。」

庶務の榛葉道流も出演に賛同する。

美森「じゃあ今すぐ参加の手続きを・・・。」

会計の丹生美森も賛同した。

菊乃「手続きは私がやります。」

浅籬が手出演手続きをすると言つた。

美森「ちなみにDEROの番組、丹生グループもスポンサーに入っていますわ。」

安形「へえ～そうなんだ。じゃあミリオン、今あそこで丹生グループの娘とアピールできるじゃないか。」

美森「まあそれはほどほどにやります。」

そして椿は、

椿「藤崎め、君らスケット団から生徒会への挑戦を身の程じらずと教えてやる・・・！」

そういうと椿は生徒会室から出て行った。

浅籬は安形が置いた手紙を見た。

菊乃「会長、対戦相手は『生徒会役員共の桜才学園生徒会』書かれていますが・・・。」

これに対しても安形は、

安形「椿の奴、スケット団以外の対決に興味絶対持たなそうじゃないか。だからあえてスケット団が対戦相手だと嘘をついたのさ。きっと本番当日、対戦相手見てみたら仰天するだろうね。」

菊乃「そうですか・・・。」

安形「それよりデージー、早く口テレに電話して出演承諾の連絡をしてくれないかな？」

菊乃「わかりました。早速電話をかけます。」

浅籬は電話を取る。

そして丹生は、

美森「桜才学園ですか・・・、だつたらVIPな待遇をさせませんとね。」

何やら思いついたようだ。

そしてDERO本番担当、桜才学園の生徒会は・・・、

シノ「今日がついにDERO本番だな。」

タカトシ「そうですね。」

アリア「楽しみですね。」

スズ「私は子供じゃないことを見せてやるー。」

4人は桜才の校庭に集まっていた。

タカトシ「でもなんで一日に一日の校庭に集まれと・・・。」

シノ「日テレのスタッフがな、ここに集まれといわれたのだ。」

そして数分後何やら音が・・・、

ブロロロロロロロ・・・、

空からヘリコプター2台が現れた！

スズ「何あれ！？ヘリ！？」

そしてヘリコプターが校庭に下りてくる。

そしてヘリコプターから人が出でくる。

男「生徒会役員共の皆さん、これからDEROのスタジオのある生田スタジオまでこのヘリで連れて行きます。」

男がそう言った。

タカトシ「へ、ヘリでDEROのスタジオに！？」

タカトシは仰天する。

シノ「結構待遇のいいテレビ局だな。」

アリア「とにかく乗りましょう。」

スズ「そうだ、早く乗ろう！」

4人はヘリの乗る。

1機はタカトシとスズ、もう1機はアリアとスズが乗った。

そしてヘリは空を飛ぶ。

タカトシ「しかし、俺達一般人がヘリに乗せてスタジオまで連れていくなんて、日テレってそんなにお金あるのかな？」

タカトシはそれに疑問を感じていた。

そしてヘリは生田スタジオに着く。

4人はヘリに降りる。

シノ「さあDEROのスタジオに向かうぞ。」

桜才学園生徒会4人はDEROのスタジオへ向かう。

続く

本番前・・・（後書き）

次は紹介と管理人との会話です。

紹介・管理人との会話

DEROのスタジオに集まつた生徒会役員共の桜才学園の生徒会とSKET DANCEの開盟学園の生徒会の面々。

まず生徒会長同士があいつする。

シノ「私が桜才学園高等部生徒会長の天草シノだ。」

安形「俺は開盟学園生徒会長の安形惣司郎だ。このDEROでいい戦いをしよう。」

シノ「こちひこじわ。」

生徒会長同士のあいつが終わる。

しかし椿はなぜが不機嫌な表情だ。

椿「会長…これはどうことですか！相手はスケット団と聞いてたのに、全く違うじゃないですか！話が違います！」

安形「どうせ椿はスケット団じゃないと目も向けそうにないから、あえてスケット団が対戦相手と俺は嘘を言つたんだよ。」

安形は軽く言つた。

椿「ばかばかしいです！僕は帰りますー！」

椿がスタジオから出ようとすると、

スズ「あんたそんな事で帰る気なの！相手が違つただけでゲームに挑戦せずに帰るなんて、小さい人間ね！」

スズがそう言つと椿は、

椿「な、なんだこの娘は？」

椿が驚愕した顔で言つた。

タカトシ「彼女は会計の萩村スズって言つんですね。子供に見えるけど、れつきとした高校生です。」

タカトシが言うとスズは、

ガンッ！

タカトシ「いたつ！」

タカトシの足を蹴つた。

スズ「子供つて言つな！」

そしてシノが言つた。

シノ「彼が副会長の津田タカトシで、こっちが書記の七条アリアだ。

「

アリア「よろしくお願ひします。」

アリアが挨拶する。

安形「こいつが副会長の椿佐助であつちが庶務の榛葉道流、そしておつとりとしたのが会計のミモリンこと丹生美森、キリッとしたのが書記の『テージー』こと浅籬菊乃だ。」

榛葉「よろしく。」

美森「よろしくお願ひします。」

アリア「あれつ丹生といつ苗字といつことは、あの丹生グループの令嬢さん？」

美森「そうです。」

タカトシ「七条先輩、あの人（美森）知つているんですか？」

アリア「あの大企業の丹生グループです。年商は京単位で・・・。」

タカトシ「えへへ！それつて七条先輩の実家の企業よりはるかに上じやないですか！」

タカトシは丹生企業の大きさに驚くばかり。

美森「ちなみにヘリの調達をしたのも私ですわ。」

タカトシ（丹生グループ、恐るべし・・・！）

そして管理人が現れる。

管理人「よつこじや、桜才学園と開盟学園の生徒会の皆さん…今日は生徒会対決といつことで、どつちがすごい生徒会かをアピールさせていただきますよー！」

安形「やつと来たね。」

椿「全くなんで僕がこんな番組に参加するのですか。」

管理人「椿、何か文句あるか？」

椿「ありますよ！相手がスケット団じゃないのにこんな番組に出るなんて納得いかない！」

椿があれこれ言つと安形は、

安形「椿、シノはとても規律の厳しい生徒会長だよ。君も他生徒に学園の規律を厳しく指導してるだろ？規律の厳しい者同士が戦うんだから、ここで逃げると副会長の面目が立たないぞ。」

安形がそう言つと椿は、

椿「わかりました。生徒会の面目をかけて戦いましょう。」

椿はようやく戦うことを承諾した。

シノ「これでやつと安心して戦えるな。」

管理人「よかつたよかつた。といひでテージー、君何にもしゃべつてみたいだけど。」

菊乃「管理人さん・・・。」

管理人「何?」

菊乃「DOS（ドブで溺れて死ね。）」

菊乃この言葉に管理人は、

管理人（なんかこいつ、むかつくなあ）

こう思っていた。

男ナレ「ルールはこちら! 各チーム2つのステージの挑戦し、ポイントの獲得数が多かつたチームが賞金獲得への第3ステージに挑戦する!」

1stステージ、まずは桜才学園生徒会チームの挑戦。

桜才学園生徒会チームの挑戦 石像の間 前編

桜才学園生徒会チームが挑むステージは石像の間。挑戦するのは、天草シノ・津田タカトシ・七条アリアの3人。長く細い部屋の奥には不気味な石像が待ち構えている。

3人は足かせをはめられ、動きを制限される。

果たして3人は無事に脱出することができるか！？そして脱出口がロックされる。

ガチャン

3人は目隠しを外す。

タカトシ「あれっ、足に何かはめられてるじゃないか！」

タカトシは後ろを見た。

タカトシ「あれば・・・、石像！」

シノ「静かにしろ、津田。」

うろたえるタカトシに冷静なシノ。

アリア「なんかドキドキするわね。」

アリアは緊張感がないようだ。

そしてモニターに管理人が現れる。

管理人「よつこや、石像の間へ！いやー女子2人にかこまれているタカトシがうらやましいなー。」

タカトシ「いや、そんなことは別に・・・。」

管理人「あらあらそうですかー。シノちゃんとアリアちゃん、脱出できる自身ありますか？」

シノ「当然だ。脱出できないと生徒会の面目がない。」

アリア「でも私、石像に食べられたらどんな感じがするのか経験してみたいわ。」

アリアの言葉に管理人は、

管理人「石像に食べられたらどんな感じがするって・・・、君変わつてるな。」

アリア「でもシノちゃんも変わっている所あるわよ。」

男ナレ「この部屋から脱出するためには、迫りくる石像に捕まる前に、3つの扉の謎を解き、全ての扉を開けて石像停止ボタンを押さなければならぬ。ちなみに石像の鼻を押すと、押した人が犠牲になる代わりに他の人が生き延びるための時間を稼ぐことができる。」

石像は鼻を押すと3m後退する。残り80cmになると黄色い線のDANGERゾーンに入り警告音が流れる。赤い線のDEADゾーンに石像が来てしまふと脱出失敗となる。

管理人「それではがんばってくださいねー。バイバイーと。」

モニターから管理人が消える。

女ナレ「それでは、うつぶせに寝てください。」

3人はうつぶせに寝る。

シノ「もうすぐ始まるな。」

ウイーンウイーンウイーンウイーン

タカトシ「始まった！」

アリア「わくわくするわね。」

女ナレ「移動まで、3、2、1、0。」

ドゴー――――――!

タカトシ「わあ――――っ――!」

3人は石像の所までに引っ張られる。

タカトシは石像を見て、

タカトシ「うわあ、石像の所まで来たら本当に怖い！」

そして3つの扉が閉まる。

シノ「扉が閉まつていつたぞ。」

タカトシ「ええ――つ！？」

そして石像の目が光り・・・、

フシユーニッシュン

石像の鼻から炭ガスが発射した

脫出開始

石像が動き出す。

タカトシ一 わわわ、 来ますよ！」

シノ - 早く行くぞ！」

3人は第1の扉に向かう。

アリア「どんな問題かしら。」

ここからはシノシ、タカトシタ、アリアアと省略します。

女ナレ「第1の扉、さかさ言葉クイズです。」

片方から語あと浮の生き物、這がに語あと仙仙が交わることになる3文字の言葉を並べなさい。

らいやくるげすか

タ「逆から読むと価値が変わること・・・？」

3人は考える。

タ「やすか・・・、安い価格の安価・・・。」

シノ「違うな、かすやという生き物はいない？」

タ「じゃあ・・・何でしじう？」

2人が考えている中、アリアが、

ア「げ・ら・く・・・、下落じゃないの？逆から読めばくらげになるわ。」

シ「それだ！」

3人はブロツクを取り、

くらげ

シ「行けっ！」

シノはボタンを押す。

ピンポーン

正解 くらげ

くらげ 下落

第1の扉が開く。

シ「アリア、ナイスだな。」

ア「いやそれほどでも。」

タ「早く行かないと来ますよー。」

3人は第2の扉へ向かう。

そして着ぐ。

女ナレ「第2の扉、穴埋めクロスクイズです。
上下左右、4つの言葉ができるように四角を埋めなさい。」

ち

お
すみ

し

やむおらぐかわも

ア「何でしうね・・・。」

シ「おや・・・、大家、おやすみ・・ちおや・・違つた。」

タ「俺全然わかりません!」

シ「絶対答えがどこにある。よく考えるんだ。」

タ「くわ・・・、あつ『お』と『すみ』には入らないー。」

苦戦する3人。迫りくる石像・・・、

ア「ちかく・・・、おかく・・・、かくすみ・・・、かくし・・・。」

「

シ「『おか』も違つな。」

タ「『すみ』って何が入るんだ・・・?」

と、ここで石像がテンジャーボーンに突入！

シ「会長、もう石像が来ましたよー！」

男ナレ「石像がテンジャーボーンに突入！赤いゾーンのテッドゾーンに入ると全員まとめて食べられてしまう！果たして誰が犠牲となるー？」

タ「誰が犠牲になるんですかー！？」

シ「私は嫌だぞー。」

ア「じゃあ私が行きますー。」

アリアは石像のどこのに行き、鼻を押した。

ペルーンー。

身代わり 七条アリア

プシュー――ツ――！

ブホー――ーン

アリアが弓きずつこまれよひつかる。

タ「七条先輩～。」

ア「津田くさん、シノちゃん、石像に食べられたビビんな感じがある
か、私そこまでキドキするわ・・・。」

タ「でもひじで七条先輩になくなれ」とになりましたよー。」

ア「大丈夫よ。あとは会長副会長同士でまかせてね。」

シ「あとは私と津田でまかせる、アリアー！」
そして・・・、

ビームー――ンー！

アリアが石像に食べられてしまった。

プシュー――ツ――！

女ナレ「アリアさん、脱出失敗です。」

スズ「ああ七条先輩！」

がっかりするスズ。しかし椿は・・・、

椿「なんだあの人は。食べられたらどんな感じがするって・・・。」

アリアの言葉に困惑する椿。

男ナレ「七条アリア、石像に食べられたらどんな感じがするといい残し、潔く石像に飲み込まれる！脱出失敗！」

アリアの犠牲により、石像が3mまで後退。

タ「会長、早く解きましょう！」

タカトシはシノに向う。

シ「ん？から・・・・？おから、ちから、からすみ、からし、『からだ！』

タ「あつそれです！」

シノは『か』と『ら』のブロックを取り、置く。

ピンポーン

正解

ち 力

おから

お から すみ

からすみ

からし し

第2の扉が開く。

タ「七条先輩のためにも脱出しましょ、会長ー。」

シ「わかつてる！

2人は第3の扉に向かう。

続く

石像の間 後編

石像の間に挑戦中の桜才学園生徒会チームのシノ・タカトシ・アリア。

しかしアリアの身代わりにより、残り2人となつた。
果たして2人は脱出できるか・・・。

シ「次の扉で最後だ。」

2人は第3の扉に着く。

女ナレ「第3の扉を開けるには、人物名前並べ替えクイズに3問正解しなくてはなりません。」

タ「3問か、厳しいな・・・。」

女ナレ「第1問、全ての文字を使い、声優の名前になるように並べなさい。」

つたあけなたや

タ「えーっと、やたけ・・・いないか。」

シ「『た』が2つあるな。」

タ「あやたけ・・・。」

シ「たけた・・・、あつ竹達彩奈だ。」

たけたつあやな

シ「よしー。」

シノはボタンを押す。

力チツ

ピンポーン

正解 竹達彩奈

タ「あと2問・・・。」

女ナレ「第2問、全ての文字を使い、声優の名前になるように並べなさい。」

もぶおことひかの

シ「これも声優の名前か・・・。」

2人は懸命に考える。

シ「ことぶき・・・、『き』がないな。」

タ「のぶお・・・、名前はこれの方かな?」

色々とブロックを動かす2人。

シ「狩野かのうといふ名字もあるが、これでは名前が結びつかないな。」

苦戦する2人。

石像はびくびくと迫つてくる。

タ「えっと、お・・・かも・・・、咲子岡本じゃないんですか！？」

シ「それありえるな。」

カザ『おかもと』と並べる。

タ「それからのふ、のふー・・・のふひーじですよー。」

シ「あいつの声優は確かにこるー。」

タカトシは『のぶひー』と並べる。

そしてボタンを押す。

カチッ

ピンポーン

正解 岡本信彦

タ「あと一問ですね、会長ー。」

女ナレ「第3問、全ての文字を使い、6文字のアニメキャラと3文字の楽器の名前にならうつに並べなさい。」

たわひゅーぎーざり

タ「3文字の楽器?」

タカトシがうなずく。

といいで石像がテンジャーボーンに再び突入!

タ「わつまた来た! どうするんですか!」

タカトシがそいつとシノは、

シ「津田、お前が行け!」

タ「え、ええ! !」

うろたえるタカトシ。

シ「これは会長命令だ!」

タ「は、はい・・・。」

タカトシは仕方なく石像の所へ行き、鼻を押しに行く。

カチッ

ピゴーン!

身代わり 津田タカトシ

プシュー――――――ツ――

石像が後退し、タカトシは弓をすつゝまれよつとする。

タ「会長、本当にがんばってくださいよ。」

シ「ああ、それから石像に食べられればアリアがいるぞ。石像の中のアリアと一緒に私が脱出できるよう祈るんだ。」

タ「いや、祈る暇なんて……、あ――つ――」

ドゴー――ン――

タカトシは石像に飲み込まれてしまつた。

プシュー――――ツ――

女ナレ「タカトシさん、脱出失敗です。」

男ナレ「会長命令であえなく身代わりになつた津田タカトシ、脱出失敗！」

タカトシの犠牲により、石像が3m後退する。

シ「この伸ばし棒があるといつては……、楽器はギターだな。」

シノはギターと並べる。

シ「となると名前は……、ゆい、ん？ギターでゆいといったら、

名字は平沢、平沢唯だ！」

シノはブロックを並べ。

ひらさわゆい ぎたー

そしてシノはボタンを押す。

カチッ！

正解 平沢唯 ギター（けいおん！）

そして第3の扉が開く。

シ「これが停止ボタンだな。」

シノは石像停止ボタンを押す。

カチッ！！

パオー————ン

石像が止まる。

女ナレ「ステージクリアです。」

脱出成功

シ「津田、アリア、会長の面目かけて脱出したぞ。」

そして石像が後退していく。

女ナレ「脱出成功、おめでとうございます。」

足かせの鍵が出て、シノは鍵を開ける。

そして脱出口から出る。

男ナレ「生徒会長・天草シノがなんとか1人だけ脱出成功し、桜才学園生徒会チーム、1ポイント獲得！」

3人はサポートチームに戻る。

なぜか不機嫌なスズ。

スズ「ちょっと！一人脱出しただけって、あのメンバーだったら最低2人脱出できたはずよね！津田、副会長なんだからしつかりしろよー。」

タカトシ「じゃあ萩村、あの部屋で出た問題出来たのか？」

スズ「もちろんよー！第1、第2の扉の問題、すぐ出来たわよー。」

アリア「でも石像に食べられる経験できてよかつたわ。」

シノ「どんな感じだつたのだ?」

アリア「それは・・・、」

ネタばれ防止の為、カット。

椿「しかしあの高校の生徒会、本当に規律厳しいのでしょうか? あんな行動見てとても規律が良いとは言いたいのですが・・・。」

安形「椿、あの連中はああやつてることもあるが、ちゃんと学校の風紀を守つてる。シノという会長はちゃんとしつかり高速違反を厳しく取り締まつていると聞いてるだ。」

椿「そうですかねえ・・・。」

榛葉「なんかほほえましい生徒会だね。あの学校のは。」

美森「アリアちゃん、結構かわいかつたですわ。」

次は開盟学園生徒会チームの挑戦。

開盟学園生徒会チームの挑戦 爆弾の間 前編

開盟学園生徒会チームが挑むのは爆弾の間。

挑戦するのは、安形惣司郎・椿佐助・浅籬菊乃の3人。

3人は爆弾が仕掛けられた別々の部屋のダクトに入れられる。そして脱出口がロックされる。

ガチャン

チームワークが重要な爆弾の間で、この自由すぎる生徒会長と硬そなイメージの2人で脱出できるか！？

3人は目隠しをはずす。

椿「なんか狭いですね・・・。」

安形「ここは確か爆弾の間・・・、色々おもしろいことになりそうだな。」

3人の部屋にはそれぞれ小型爆弾があり、その中央には大型爆弾がある。

ダクトの中には、爆弾解除に必要なニッパーと仲間と会話ができるようになる通信機がある。

3人は通信機をつける。

安形「生徒会長の安形だ。」

椿「副会長の椿です。」

菊乃「書記の浅雑菊乃です。」

3人は聞こえているようだ。

そして管理人が現れる。

管理人「ようこそ、爆弾の間へ！椿、どうぞこの居心地は？」

椿「狭いですよ！何なんですか、ここは！」

管理人「君達はこの部屋で脱出するためのゲームをしてもらいます。まあ椿、ふがいない結果で、この回を見るかもしれないスケット団たちに笑われないようにね。」

これを聞いて椿は、

椿「スケット団……絶対脱出します！」

安形「椿、やけに気合入ってるみたいだな。」

管理人「安形、部屋ではやる気なさそうに見えたけど、あなたチームまとめられます？」

安形「まあそれなりにまとめるようにするよ。」

管理人「ははそうですか。ところでテージー、君意見が分かれたらどうする？？」

菊乃「会長の言つ」とを信用します。」

管理人「やはりそうですか。」

男ナレ「この部屋から脱出するためには、爆弾についている3つの起爆装置を解除しなければならない。正解と同じコードの色を切りば解除成功。但し間違ったコードを切るとその部屋の小型爆弾だけが爆発し、仲間が1人ずつ減っていく。全滅した時点で脱出失敗となる。」

管理人「それでは皆さん、がんばってくださいね。」

モニターから管理人が消える。

ウイーンウイーンウイーンウイーン

脱出開始

安形「どうやら始まったようだね。」

そしてモニターに08・00・00と表示される。

ピ-----

ピッ
ピッ

椿「会長、タイマーが動き出しましたよー。」

安形「それはわかってる。」

女ナレ「爆破タイマーが作動しました。」

そして一つ目の筒状の起爆装置が出てくる。

椿「いれOPENDって書いてあるところ」とせじれを開ける」とですよね!?」

3人は起爆装置の蓋を回し開ける

支那の歴史

安形は赤、椿は青、菊乃は黄色。

権一 どんな問題が出されるんですかね？

「」からば、安形 安 菊乃 菊と雀略します。

女ナレーターの問題です。

L

赤・ゼロの使い魔

黄色・とある魔術の禁書目録 インデックス

椿「な、なんですか、この問題・・・。」

予想以上の難しさに椿は困惑する。

菊「会長、」の中だとどれだと思ひます?」

安「俺の考えだと多分ゼロの使い魔は違つと思ひな。」

椿「なぜですか?」

安「ゼロの使い魔は多 ciòと思ひけど、シャナほどではないかと考えるな。」

菊「そうですか。」

椿「それからインデックスって、アニメになつたの最近じゃないんですか?」

安「そう言わると、確かにインデックスはこの中だつたら新しいな。」

菊「でもまだそんなに既刊されていなくともアニメ化されるものだつてあるじゃないですか?漫画だつてそうですし。」

椿「そう言わればそうですね。」

色々と迷ひが出来る。

安「でもなライトノベルは漫画と違つて、発刊される時期が色々とバラバラな所が多いじゃないか?同じ時期に初めて発表した2つのライトノベルだって同じ既刊数になるとは限らない。」

椿「あつ、そう言わると、いくら人気作家でも次の作品発表するまで1年以上かかったという人もいます。」

菊「そのこれらのライトノベルの作家さんが、次の巻書くまでにどのくらいかかるといつ」とが大事なポイントね。」

時間は6分10秒になっている。

椿「会長、残り6分になりますよー早く決めないとー。」

安「そうだな、んーー俺の予想だつたらシャナが発刊されているんじゃないかと思うな。」

椿「えーっ？ 理由は何ですか？」

安「俺書店でちらつと見たけど、結構あつた気がするんだ。」

椿「そ、それだけで？」

安「そういうことだ。」

椿「シャナは青ですよ。僕が青です。」

安「椿が青だつたな。椿は何か意見はないか？」

椿「いや、僕もわかりませんけど。でも予想ではインデックスも多そうな気がするんです。会長はどうなんですか！？」

安「それはあまり目にしないからわからない。」

椿は顔を下に向ける。

椿「浅離はどいつなんだ？」

菊「会長が言つのだつたら、それでいいんぢやない？」

椿「本当に浅離は会長の言つことを鵜呑みにするものだな。」

時間が刻々と迫る中、椿は、

椿「わかりました。じゃあ青のコード切れますよ。」

安「じやあシャナで決まりな。」

椿「じやあ青切れますよー。」

時間が残り5分になる所で、椿は青のコードを切らつとする。

チョキン

切つた。

男ナレ「椿、頼りない安形の言葉を聞き、青をカット。間違えれば自分だけ爆破、果たして！？」

ドッカーン！！

爆発した。

安「あれ？間違えたみたいだな？」

平謝りな顔をする安形。

椿のへの通信が途切れる。

女ナレー 権さん。脱出失敗です。

男ナレ「頼りない会長の言うことを信じ、自分のコードを切つてあえなく爆破！副会長・椿佐助、脱出失敗！」

ちなみに灼眼のシャナは25巻まで既刊されている。

菊「椿君、いなくなりましたよ。ビツします?」

「じゃあインテックスだな。」

菊「じゃあ会長の言つ」とを信じ、それ行きます。」

サポートルーム

タカトシ「ちよつと、それだけで切るって・・・。」

シノ「まあ自分のチームだからそんなこと関係ないだらう。何切らうがあつちの自由だらう。」

安「いいのかい？それで。」

菊「もしダメでも、後は会長ががんばってください。」

安「じゃあテーゼー、切ってくれ。」

菊「じゃあ切ります。」

菊乃是黄色のコードを切ろうとする。

チヨキン

切つた。

男ナレ「なんと浅離、安形のたつた一言だけで自分のコードを切つた！果たして大丈夫なのか！？」

ピンポーン

正解

安「あつ、合つてたな。」

菊「よかつたですね。」

女ナレ「一つ目の起爆装置、解除成功です。」

解説

ゼロの使い魔 20巻

灼眼のシャナ 25巻

とある魔術の禁書目録 27巻（短編含む）

サポートルーム

榛葉「あつ正解だったね。」

美森「でも椿君、残念でしたわね。」

女ナレ「次の起爆装置を解除してください。」

2人は1つ目の起爆装置の蓋を閉める。

果たして次の問題はどんな問題が出るのか・・・?

続く

爆弾の間 後編

爆弾の間に挑戦中の開盟学園生徒会チーム。

1問目で椿が脱出失敗となり、残るは安形と菊乃となつた。
果たして脱出できるか・・・。

2つ目の简状の起爆装置が出てくる。

2人は蓋を開ける。

コードの色は先ほどと同じ安形が赤、椿が黄色。

女ナレ「LEVELE2の問題です。次のうが、CDのメジャー『ビューチ』したのが早い方を切りなさい。」

赤・中川翔子 黄色・May-n

女ナレ「ちなみにMay-nさんは以前、本名の「中林芽衣」で歌手活動していました。（改名は2008年。）」

残り4分にならうとしている。

菊「会長、どっちだと思います？」

安「これは難しいね。ポイントはMay-nちゃんが以前本名で活動していたという所だね。」

菊「マクロスFって何年くらいに始まりましたっけ？」

安「2008年だったはずだ。改めて同じ年にショリルの歌唱パートをしたってことだね。」

菊「ところで中川翔子の方ですけどヒロトビューレーした年覚えてます？」

安「確かに2006年だったはずだね。でも何時にデビューしたかはわからないな。」

菊「そのMayuちゃんが2006年以前にデビューしていたのかが力ギですね。」

安「確かにMayuちゃんは中学生の頃にホリプロのオーディションを受けていたことは知っている。その後何年たって歌手デビューしたかだな。」

菊「それはわかつてます。オーディションから何年経てデビューしたのかを。それからMayuちゃんは翔子さんより年下ですよね？」

安「そうだな。でも歌手デビューする時の年齢は人によってまちまちだからな。」

菊「そうですね。30歳で歌手デビューする人もいますし。」

安「ところでデージーはどうだと思います？」

菊「私はMayuちゃんの方だと思います。」

安「そうか・・・でも俺は僅差でしょこたんの方だと思つた。たぶん1ヶ月くらい早くデビューしたんじゃないかと思う。」

菊「じゃあそれ会長、行きますっ。」

安「これで行つてみるか。」

残り2分30秒となるひつとしている。

安「じゃあ俺、赤切るだ。」

安形が赤のコードを切るひつとする。

チヨキン

切つた。

男ナレ「安形、^{おのれ}己の勘で赤をカット! 罷たして! -?」

爆発した。

菊「あ、会長……。」

安形への通信が途切れる。

女ナレ「安形さん、脱出失敗です。」

男ナレ「生徒会長・安形、自分の直感を信じるが結果は爆破！脱出失敗！」

女ナレ「じゃあ私のコードを切れば……。」

菊乃は黄色のコードを切ろうとする。

チヨキン

ピンポン

正解

菊「May、こさんだったよつですね。」

解説

中川翔子 2006年7月5日

May n 2005年6月1日

女ナレ「2つ目の起爆装置、解除成功です。次の起爆装置を解除してください。」

菊「後は私だけで解除ということになる・・・。」

男ナレ「残りは浅離1人のみとなってしまったーここからは1人で問題を解かなければならぬ！」

菊乃は2つ目の起爆装置の蓋を閉め、3つ目の起爆装置の蓋を開ける。

菊「あれ、2本入ってる。」

中には黄色と緑のコードが入っていた。」

男ナレ「そつこからほ2択の問題を1人で解かなければない！」

女ナレ「LEVEの問題です。次のうち、『魔法先生ネギま!』の3年A組の生徒で最も多い方を切りなさい。」

黄色・身長150cm未満 緑・身長165cm以上

女ナレ「ちなみに150cm以上165cm未満の生徒は16人い

ます。」

残り2分になる。

菊「この中で多い方を切るというものの・・・、ネギまに出てくる生徒は身長差が激しい」とはわかってる。果たしてどっちが多いか。」

菊乃は一人で考える。

菊「まず150cm未満を考えましょう。双子の鳴滝姉妹は1番身長が低い、ということは145未満2人。次に綾瀬夕映さんもかなり低かった、エヴァンジョリൻさんも含まれていたはず・・・。」

サポートルーム

タカトシ「あの浅籬さん、冷静に考えていますね。」

シノ「彼女は本当に冷静だな。」

榛葉「デージーは常に冷静だからね。」

美森「デージーちゃん、がんばって。」

懸命に考えている菊乃。

菊「佐々木まき絵さんは150未満だったかしら・・・? わからな

い。ここまで出でているのは7人・・・、次は165cm以上・・・。
龍富さんと楓さんは確か180以上・・・。」

女ナレ「爆破まで残り1分です。」

菊「あと1分・・・、いや問題に集中することにする。時間いつぱ
いまで。次に委員長も170あつたはず・・・、あつ茶々丸さんも
そうだつたわ。明日菜さんは165いかなかつたかな?なんか運動
部のメンバーに結構な長身もいたはずね。次に朝倉さんは確か16
0後半だつた・・・。あと柿崎美沙さんつて165いつていたかし
ら?。」

女ナレ「爆破まで残り30秒です。」

菊「ここまでの計算によれば145cm未満7人、165cm以上
7人、ここまで同じ人数・・・。問題は柿崎さんの身長・・・も
しかしたら多分柿崎さん165いつているかもしれない。」

女ナレ「爆破まで残り15秒です。」

菊「じゃあ縁で行く」とにする。間違っていたら会長、椿くん・・・
、すいません。」

菊乃は縁の「一ドを切らうとする。

チヨキン

縁を切つた。

男ナレ「浅離、1人で懸命に考え、最後の選択に選んだのは緑！脱出か！？爆破か！？果たして！？」

ピ―――ツ

正解

女ナレ「3つ目の爆弾、解除成功です。」

脱出成功

菊「やりました会長、椿くん・・・。」

| 解説 | 150cm未満 | 7人 |
|----|---------|----|
| | 165cm以上 | 8人 |

サポートルーム

美森「よかったですわ。」

榛葉「これで同点だね。」

女ナレ「脱出成功、おめでとうござります。」

脱出口の扉が開く。

菊乃は部屋から出る。

男ナレ「書記・浅籬菊乃、最後は懸命に考えて答えを導き、見事脱出成功！開盟学園生徒会チーム、1ポイント獲得！」

3人はサポートルームに戻る。

シノ「デージーの脱出劇はすごかつたな。」

菊乃「いえ、チームの為にやつただけのことです。」

アリア「でも副会長の椿君、あつさり終わっていましたね。」

アリアの一言に椿は、

椿「あ、あれは仕方ないことですよー自分もわからなかつたから会長の言うように切つただけですー！」

安形「これには俺もすまないと思つたな。ははは。」

安形は笑う。

椿「会長も笑わないでくださいー！」

椿は笑う安形に怒る。

安形「まあこれで同点だな。次で決着をつけよう。」

シノ「ああ、次で勝負が決まるとなるな。」

両チームとも同点のまま2ndステージに向かう。

果たして勝つのはどっちか・・・。

棒の間 その1

現在、両チームとも1ポイントという接戦。
2ndステージは棒の間。棒の間は対抗戦。
各チーム3人が挑戦。

桜才学園生徒会チームからは、天草シノ・津田タカトシ・萩村スズ。
開盟学園生徒会チームからは、安形惣司郎・丹生美生・榛葉道流。

目隠しをされた6人は部屋の中に入れられる。

そして脱出口が閉ざされる。

ガチャン

6人は目隠しを外す。

タカトシ「あつ、ここは棒の間……。」

榛葉はトイレのスッポンを見て、

榛葉「これは持つとかなきやね。」

そして・・・、

ブイーンブイーンブイーンブイーン

脱出開始

安形「どうやら始まったようだな。」

そして4本の棒が現れる。

スズ「これに乗るのね！」

安形「俺は一人で乗る。ミモリンは道流と乗つてくれ。」

美森「はい、わかりました。」

そして床がどんどんなくなっていく。

シノ「津田、早く乗れ！」

タカトシ「は、はい！」

そして6人は棒の上に乗る。

棒の配分は、

桜才学園チーム 左側 前・タカトシ 後・シノ 右側 スズ

開盟学園チーム 左側 安形 右側 前・榛葉 後・美森

そしてモニターから管理人が現れる。

管理人「ようこそ、棒の間へ！あれ、シノちゃん、なんか怖がつて
いるけど？」

確かにタカトシの後ろのシノは怖がってる顔をしている。

シノ「こ、これは怖い・・・。私は高いところが苦手だ・・・。」

タカトシ「会長!しつかりしてください!」

タカトシはシノを心配する。

管理人「ところでミモリン、すごい金持ちなんだね。それからDE ROが君の親のスポンサーになつてくれて、スタッフもウハウハだよ。」

美森「今なら1億円出しますから、私たちを脱出させてくれませんか?」

管理人は照れた顔で、

管理人「いやあどうしようかなー?」

スズ「ちょっとーなにお金で解决しようとしてるのよー。」

スズは美森の対応に怒っている。

榛葉「ふふふふ、楽しそうだね。」

榛葉はそれに笑っている。

管理人「それから安形、君には隠れた実力があるって・・・。」

安形「まあ、これで決着が決まるから、ここに本気出すとするか。」

男ナレ「この部屋から脱出できるのは1チームだけ。その1チームが決まるまで、問題がエンドレスに出題される。バスは1チーム1回のみ。脱出人数1人につき2ポイント。1人でも脱出できたチームが勝利となり、3rdステージ进出となる!」

果たして脱出できるのはどちらか。。。

続く

棒の間 その2

棒の間がスタート。

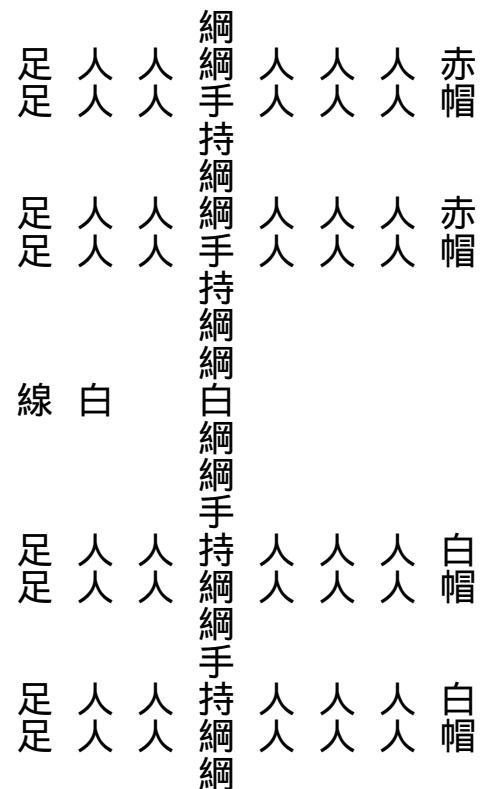
尚、ここからはシノ シ、タカトシ タ、スズ ス、安形 安、榛葉 榛、美森 美と省略します。

1巡目

女ナレ「まずは、漢字であるものを表現した漢字イラストクイズです。」

最初は桜才学園チームから。

女ナレ「桜才学園生徒会チーム、タカトシさんへの問題です。この漢字イラストは何を表しているのでしょうか？」



タ「えつと・・・。」

シ「ほ、ほりあれだ、津田。わかるぞ・・・。」

シノを高さにおびえながらもわかつていいよ」つだ。

ス「何やつてゐるのよー。早く答えてー。」

タ「赤帽に白帽、白線に綱・・・・、あつ綱引き!」

ピンポン

女ナレー 正解です。答えは縄引きでした。

シーモーと早く答えられなかつたのか?」「

夕一急にはわかりませんよ!それよりも大丈夫ですか?」

シ
私は大丈夫だ…
早く次の問題に進め…！」

女ナレ「タカトシさんとシノさんの命の棒、残り149cmです。スズさんへの問題です。何を表しているのでしょうか?」

五

鼻
帶
透
淨
玉

卷之三

卷之三

人簡入

物液体物
入液体入
物入人物

ス「しゃぼん玉！」

ピンポン

スズは早い段階で答える。

女ナレ「正解です。答えはしゃぼん玉でした。スズさんの命の棒、残り166cmです。」

ス「浮かぶ玉ですぐわかったわ。」

女ナレ「開盟学園生徒会チーム、安形さんへの問題です。何を表しているのでしょうか？」

安「やつと俺の出番か。」

叩 手手
叩持持持持持持手
叩 手手

竜 土
竜 土 竜 土 金
竜 竜 投入口

安「もぐら叩き。」

ピンポーン

タ「あの人も早い・・・。」

女ナレ「正解です。答えはもぐら叩きです。」

安「土と竜と書いてもぐらと読む。」

タ（さすが開盟学園生徒会長安形さん・・・あれですぐわかるとは・・・。）

女ナレ「安形さんの命の棒、残り168cmです。続いて榛葉さんへの問題です。何を表しているのでしょうか?」

景品

棚棚棚棚棚棚棚棚

品品彈

鉄砲鉄砲鉄

棚棚棚棚棚棚

品品

金鉄

景品

砲

弾弾

榛葉「射的。」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えは射的でした。」

美「榛葉さん、いいですね。」

安「そうだな。道流も早く答えられたな。」

榛「まあ、鉄砲と景品ですぐわかつたけどね。」

榛葉は髪をなでおひしながら言ひつ。

女ナレ「榛葉さんと美森さんの命の棒、残り153cmです。」

サポートルーム

アリア「榛葉さんって何かかっこいい・・・。」

アリアは榛葉にひつとりしているようだ。」

次は2巡回に入る。

果たして先に落ちるのは・・・。

続く

棒の間 その2（後書き）

やつぱりパソコンの文字入力だけで漢字イラスト作るの難しいです。
。。。

シャボン玉のイラスト、自分から見てもわかりずらくなっています。

棒の間 その3

棒の間は2巡回に入る。

2巡回

女ナレ「続いては『あこうえお』を暗号で表した、あこうえお暗号クイズです。シノさんへの問題です。この暗号は何を表しているのでしょうか？」

「せじすせわ セじつりり

シ「これは何だ……？」

シノはえつ？としたよがりな顔をする。

シ「させそがり……？させそり。」

ブーッ

シノはまだわからない。

ヒント・どの文字から『り』になっていく？

シ「どの文字から……？『す』からとこつ」とか？でもそれでもわからない。」

タ「会長！棒が縮んでこきますよ！」

シノはわからないままなので、棒は縮み続ける。

シ「バス！」

シノはバスをした。

女ナレ「ただいまの問題の正解は、『す』以下は『り』になつていいので、スイカ割りでした。」

タ「これは難しいですよ。会長でも苦戦するのがわかります。」

シ「津田、スズ、バスを使って申し訳ない・・・。」

女ナレ「シノさんがバスを使いましたので、桜才学園生徒会チームはバスはもう使えません。タカトシさんとシノさんの命の棒、残り91cmです。」

男ナレ「ここ」でシノがバスを使ってしまった！スズは答えられないと奈落の底へ！

女ナレ「スズさんへの問題です。この暗号は何を表しているのでしょ？」

ああああああいえお
らりるれろろろろろろ

あいづえええお

ス「あが⁶、らが⁷、えが⁴・・・、あむろな・・・、安室奈美恵！」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えはあが⁶つ、らは⁷つ、えが³つあるのと、あ⁶(め)・ら⁷(な)・え³(み)え、安室奈美恵でした。」

ス「このへりいお手の物よ。」

女ナレ「スズさんの命の棒、残り150cmです。安形さんへの問題です。この暗号は何をあらわしているのでしょうか？」

亀
うつむれる

安「亀が『れ』の上に載っているからカメレオンだ。」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えは『亀』が『れ』の上に載っている、O O していふこと、で、カメレオンでした。」

タ「す、す、い・・・、萩村も早いが、安形さんも早い・・・。」

タカトシはスズと安形の驚異的な解答の早さに驚くばかり。

女ナレ「安形さんの命の棒、残り155cmです。美森さんへの問題です。『』の暗号は何を表しているのでしょうか？」

さしすせそ

い
も

たちつてと

美「えーーっと……。」

考える美森。

美「いつも……たとつの間に……、あれ、全然わからないですわ。」

榛「//モロン、落ち着いて。」

ヒント・『い』と『も』が何と何の文字の間にに入っていますか？

美「さつあいだいも……、あれヒント出てもわからないですね。これはパスします。」

美森は真顔でパスした。

女ナレ「ただいまの問題の正解は、『さ』と『つ』が『い』と『も』の間に入っている、『さつまん』『いも』でした。」

美「あーつ。間^{あいだ}と言^いうんではなくて『間^ま』と読めばよかつたんですね。それはあまり考えていませんでした。」

バスを使つたが悪氣はなさそな顔をする。

榛「大丈夫、相手もバスを使つたからこの場合はお互い様だ。ここからが勝負所だよ。」

女ナレ「美森さんがバスを使いましたので、開盟学園生徒会チームはバスはもう使えません。榛葉さんと美森さんの命の棒、残り97cmです。」

男ナレ「ここで両チーム共、バスを使い切つた…ここからは答えられないと奈落の底へ！」

3巡目

女ナレ「続いては、抜けている3つの文字を入れて縦から読むとある言葉になる。3つの穴埋め言葉クイズです。タカトシさんへの問題です。3つの丸に文字を入れると何と言^いふ言葉になるでしょう？」

く
い
しゃ
けい

タ「えーっと……最初はくさい……、汽車、医者……、け

いじ、毛糸・・・、サイト!」

ピンポーン

女ナレ「正解です、答えはサイトでした。

くせい（臭い）
いしゃ（医者）
けいと（毛糸）

シ「よく早く答えた、津田・・・！」

シノは高い場所におびえながらもタカトシを褒める。

女ナレ「タカトシさんとシノさんの命の棒、残り60秒です。スズさんへの問題です。3つの丸に文字を入れると何と書かれた葉にならでしよう?」

んし
じ ん
ほ き

ス「派遣!」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えは派遣でした。」

はんし（半紙）

じけん（事件）

ほんき（本氣）

女ナレ「スズさんの命の棒、残り137cmです。」

またも早く答えたスズ。

次は安形の番である。

先に落ちるのはどっちか・・・?

続く

棒の間 その4

3つの穴埋め言葉クイズは、桜才学園チームの番が終わり、開盟学園チームの番が来ようとしている。

女ナレ「安形さんへの問題です。3つの丸に文字を入れると何という言葉になるでしょう?」

ち
み
は
ん

安形は少し考えている表情だ。

安「・・・コアラ。」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えはコアラでした。」

ちこつ（恥骨）
みあい（見合い）
はらん（波乱）

女ナレ「安形さんの命の棒、残り135cmです。」

安形「ちょっと時間使つてしまつたかな。」

安形は少しあへとした顔をしながらも余裕の表情を見せる。

女ナレ「榛葉さんへの問題です。3つの丸に文字を入れると何と言葉になるのでしょうか？」

きん
らい
はし

榛「んーとこれは・・・、最初はきりこ？次はじりこ？」

榛葉はいろいろと文字を入れる。

榛「はなし。らうな？（ブーッ）そんなのないな。」

榛葉は考へている間、棒はどんどん縮んでいく。

榛「きおん・・・、たらい・・・、はくし・・・、あつ、白紙。」

ピンポン

DANGERが出かけた瞬間に正解する。

女ナレ「正解です。答えはオタクでした。」

きおん（気温）
たらい
はくし（白紙）

榛「//モモン//」めん。ちょっと時間がかかった。」

榛葉は美森に謝る。

美「いや、そんなことはかまいません。私もこれはわからない所ありましたから。」

美森は笑顔で許す。

女ナレ「榛葉さんと美森さんの命の棒、残り49cmです。」

サポートルーム

椿「//れはいい勝負ですね・・・。桜才の連中もなかなかやる。」

菊乃「ここからが勝負が決まる時ですね。」

アリア「シノちゃん達、がんばって。」

4巡回

女ナレ「続いては3つの漢字にある部首をつけると、別の漢字になる部首入れ漢字クイズです。シノちゃんへの問題です。この3つの漢字には何の部首がつくでしょう？」

刀・反・車

シ「えつとこれは……。」

シノは急いで考える。そして50cmを切り、DANGERと表示される。

タ「会長、棒がもうなくなります……、ついであ——っ……。」

タカトシはシノに忠告をした途端、奈落の底へ……。

とシノがその時、

シ「しゃんこうづー。」

ピンポン

シ「ふう・・・。」

女ナレ「正解です。答えはしゃんこうづでした。」

辺・返・連

女ナレ「ちなみに桜才学園チームのタカトシさん、脱出失敗です。」

シ「津田、すまない・・・。あと2秒早ければ・・・。」

男ナレ「副会長・津田タカトシ、必死の忠告をするものもシノが正

解する前に奈落の底へ、脱出失敗！

女ナレ「シノさん命の棒、残り30cmです。」

シ「怖い・・・そして棒も短い・・・私本当にまずい状況だ・・・」

シノは高さと現在の棒の短さでさらなる恐怖にかられている。

女ナレ「スズさんへの問題です。この3つの漢字には何の部首がつくのでしょうか？」

白・立・卒

スズはあまり動搖せずに考える。

ス「羽！」

ピンポン

女ナレ「正解です。答えは羽でした。」

翌・翌・翠

女ナレ「スズさんの命の棒、残り114cmです。」

ス「まあ、卒に立につくものと並べば羽しかなこじやない。」

女ナレ「安形さんへの問題です。この3つの漢字には何の部首がつくのでしょうか?」

守・虫・者

安形も同様せずに考へ。

安「けものへん。」

ピンポン

女ナレ「正解です。答えはけものへんでした。」

狩・独・猪

女ナレ「安形さんの命の棒、残り1115回目です。」

安形はスズを見て、

安「また君と並んだね。」

ス「う、うるさいわね!」

安形の挑発的な顔を見たスズはツンとした顔をする。

女ナレ「美森さんへの問題です。この3つの漢字には何の部首がつくのでしょうか?」

周・章・景

残り50cmを切っているため、DANGERと表示される。

美「なんだしよう、これ?」

考えている間にも棒が縮み続け……

榛「いやめん//モコノ、僕は//サヨナラだ。」

榛葉の棒の足場がなくなり、榛葉は奈落の底へ……。

美「いざとくん?」

ブーツ

ヒント 右側につきます。

美「えつと……。」

そして棒はどうなんなくなり……、

美「あつ、ダメですわ……。」

美森はしつとした顔で奈落の底へ……。

安「ミモロンはこれは答えられなかつたか……。」

女ナレ「桜才学園チームの榛葉さんと美森さん、脱出失敗です。ちなみにただいまの問題の正解は、さんづくりでした。」

彫・彰・影

男ナレ「榛葉、ミモリンにまかせてかつこよく落ちるも、肝心のミモリンも答えられずあえなく落下！庶務・榛葉道流・会計・丹生美森、脱出失敗！」

シ「スズ、安形さんを落とせば桜才学園の勝ちだ・・・。」

ス「それはわかつてます。私も力をふりしぼります。」

椿「とうとう開盟は会長だけになってしまったか・・・。」

菊乃「でも会長はIQ-160です。頭脳は普通の人よりはるかに上です。」

これを聞いてアリアは、

アリア「あら、こちらの学園のスズちゃんのIQは180ですよ。」

これを聞いて2人は、

椿・菊乃「えつ・・・?」

少し驚いた顔をした。

次回、この棒の間がまさかの接戦になるとは・・・。

続く

棒の間 その5

棒の間で今、5巡目に入る。

桜才学園チームはタカトシが、開盟学園チームは榛葉と美森が落下し脱出失敗となる。

桜才学園チームは残り2人、開盟学園チームは残り1人。果たして勝負の行方は・・・。

5巡目

引き続き、部首入れ漢字クイズ。

女ナレ「シノさんへの問題です。この3つの漢字には何の部首がつくでしょう?」

单・長・玄

シ「えーと、えーと・・・。」

考えている間にシノの足場の棒が徐々になくなっていく。

シ「ああ怖い、棒がなくなる!」

パニックになり、考えられなくなる。

そして・・・、

シ「さやああ――！」

シノは奈落の底へ・・・。

ス「会長も落ちちゃったわ。」

スズは深刻な表情になる。

女ナレ「シノさん、脱出失敗です。ちなみにただいまの問題の答えは、ゆみへんでした。」

弾・張・弦

安「これでとうとうそっちのチームも一人になつたね。」

安形は感情包み隠さずにスズに言つた。

男ナレ「生徒会長・天草シノ、高さと短くなつた棒の恐怖でパニッ
クになり答えられずに落下！脱出失敗！」

これでとうとう各チーム一人となつた！しかも2人ともまだ100
cm以上の棒の長さである！この後、まさかのドラマが・・・。」

女ナレ「スズさんへの問題です。3つの漢字に共通してつく部首は
何でしょう？」

由・回・西

スズは懸命に考える。

ス「えんこ」よつけー。」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えはえんこよつけーでした。」

延・廻

ス「これはレベル高いわね・・・。」

女ナレ「スズさんの命の棒、残り93cmです。安形さんへの問題です。3つの漢字に共通してつく部首は何でしょう?」

圭・里・則

安形は冷静に考える。

安「がんだれ。」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えは、がんだれでした。」

厘

安「これも難しめだったな。」

女ナレ「安形さんの命の棒、残り93cmです。」

「」で安形がスズに何かを言つてきた。

安「君に聞きたいことがある。」

ス「何?」

安「俺は普段はだらしなさそうにと言われるが、実はかなりの頭脳明晰でね、IQは160と言われる。」

それを聞いてスズは、

ス「IQ160? 何よそれくらい! 私はIQ180の帰国子女! 10桁の暗算も朝飯前! 英語ペラペラ! 物の誤差もミリ単位で見極められるわ!」

安「ほう、俺よりIQが高いのか。でも低身長がコンプレックスなんだね。」

これを聞いて、スズはキッとなる。

ス「ムキ———言つてはならないことを!」

スズは怒り始めるが安形はせらりと言つ。

安「いろんなお子さま体系な生徒も生徒会の一員なんて、君の学校の生徒会も色々変わり者が多いな。まあ幼女のよつたな生徒も生徒会のマスコットぽくつていいな。」

安形の挑発的な言動にスズは、

ス「ムキ————！また子供扱いしたわねー絶対生き残つてやるわ！」

そして・・・、

スズの番

女ナレ「何の部首に入るでしょ」？

区・谷・金

ス「かける・けんづくりー！」

ピンポーン

歐・欲・欽

安形の番

民・兆・玄

安「めへん。」

ピンポーン

眠・眺・眩

スズの番

少・多・失

ス「のぎへん。」

ピンポーン

秒・移・秩

安形の番

亡・工・文

安「むしへん。」

ピンポーン

虹・蚊

男ナレ「この2人は死闘は思いがけないものとなつた! そして勝負は10巡目経つても続く・・・。」

安形の番

包・化・安

安「かわへん。」

ピンポーン

鞄・靴

現在の棒の長さはスズが17cm、安形が18cmとなつた。

サポートルーム

椿「これは本当にすさまじい戦いだ。藤崎の時よりもすごい・・・。」

椿は長い戦いに驚くばかり。

菊乃「でも次が勝負時ですね。もう2人の棒も20cm切つているわ。」

アリア「スズちゃん、がんばって・・・。」

アリアもこの戦いを見て真剣な表情となつている。

女ナレ「スズさんへの問題です。3つの漢字に共通してつくる部首は何でしょう?」

巨・各・兆

スズは冷静に問題を見る。

ス「あしへん!」

ピンポン

女ナレ「正解です。答えは、あしへんでした。」

距・路・跳

女ナレ「スズさんの命の棒、残り3cmです。」

ス「まだ終わらないわ・・・!」

スズは残りわずかな足場にたえるようにトイレスッポンに必死にしがみつく。

女ナレ「安形さんへの問題です。3つの部首に共通してつくる漢字はなんでしょう?」

川・豆・丁

安形は考える。

安「おおがい。」

ピンポン

順・頭・頂

安形が正解したその時、

安「あつ、これもうダメだ・・・。」

残り2cmになった所で安形は奈落の底に落ちてしまった。

サポートルーム

椿「会長が落ちてしまった・・・。」

落胆する椿。

菊乃「残念でしたね。」

アリア「やつた！桜才学園の勝ちねー！」

喜びの表情になるアリア。

女ナレ「安形さん、脱出失敗です。」

ス「といつことは・・・?」

女ナレ「桜才学園生徒会チーム、3rdステージ進出決定です。」

脱出成功

ス「やつたわ・・・!」

そして床が元に戻る。

そして脱出口が開く。

ガチヤン

ス「確か1-1巡回の問題、私が安形さんより1秒早く早く答えられたわね。」

そこまでスズは計算していたようだ。

スズは外に出る。

女ナレ「大接戦の結果、見事萩村スズが死闘を制し、桜才学園生徒会チーム、3rdステージ進出決定!」

3人はサポートルームに戻る。

管理人「いやいやいや、この戦い今まで見たことないよ！10巡目になつても勝負がつかないって。」

タカトシ「自分もこの戦いには驚きましたよ。」

スズ「私の方がIQが高かつたから勝てたのよ。安形さんより、1秒早く答えられたし！」

安形「まあ、君が小さかったから、勝てた要因もあるな。俺より足もはるかに小さいからあんな短くなつた棒も耐えられたからな。俺だつたら耐えられなかつたな。」

この言葉にスズは、

スズ「ムキーー！また小さいと言つたな！」

スズは安形につつかかろうとしたが、タカトシに止められた。

タカトシ「でも俺もそう思つたな。萩村の子供体系がチームに勝利を呼んでくれて・・・。」

タカトシがそう言つとスズは、

ギュッ！

タカトシ「痛てつー！」

スズはタカトシの足を踏んだ。

アリア「ふふふ。」

アリアはこれに笑う。

管理人「ははははは。」

管理人も苦笑い。

安形「これは見事な戦いだつた。こっちの完敗だよ。」

シノ「あなた方もよく戦つてくれました。」

安形とシノは握手する。

菊乃「会長は負けましたけど、これはいい戦いだと思いました。」

椿「負けた会長ですけど、これは悔いのない戦いででした。」

美森「やつぱりあれが一番会長らしい所ですね。」

榛葉「本当にすごかつたよ。」

安形「みんな、ありがと。」

安形は4人の感謝の言葉を言った。

さあ桜才学園生徒会チームは賞金をかけて、3rdステージに挑む、
果たして賞金を獲得できるか・・・。

棒の間 もの（後書き）

西のえんこう・圭と剛のがんだれ・安のかわへんといふ漢字の読みがわからなかつたので、書けませんでした。でも実際にある漢字です。ちゃんと調べたので間違いはありません。

壁の間 その1

見事開盟学園生徒会チームに勝利した桜才学園生徒会チームが挑戦する賞金獲得ステージは壁の間。

挑戦するのは、天草シノ・津田タカトシ・萩村スズの3人。3人は腰にフックがつながれており、そのフックが壁につけられる。一番重要な力ギギを握るのはまずまずの活躍を見せるも今日脱出のないタカトシ。ここで初めての脱出となるか！？

果たして3人はクリアして賞金獲得となるか・・・。そしてクイズゾーンのドアがロックされる。

ガチャン

女ナレ「田隠しを外してください。」

3人は田隠しを外す。

シノ「何だか前とは対照的に一気に近代化した場所のようだ。」

タカトシ「会長！腰に何かついていますよ！」

シノ「見ればわかっている。」

あわてる様子のタカトシに対し、棒の間とは対照的にここでは冷静なシノ。

スズ「こんな所へ連れてきて、おまけにこんなのつけられて、一体これから何をするつもりなの！」

そして管理人が現れる。

管理人「ようこそ壁の間へーとつとう！」今まで来ましたね、生徒会長のシノちゃん。」

シノ「私たち生徒会の力を振り絞れば、ここまで来たのはたやすいことだった。」

タカトシ「いや、俺と会長、棒の間で落ちたでしょう。」

シノの強気なせセリフに、タカトシはあきれる様子だった。

管理人「それよりもタカトシ、今日まだ1回も脱出してないでしょ？ここには脱出しないと副会長の面目丸つぶれだよ。」

タカトシ「いや、僕もがんばっているんですが、間が悪くて脱出できなかつただけで……。」

スズ「言い訳をするな津田！」

タカトシの言葉をスズが一蹴した。

管理人「それではこの部屋で生き残るためのルールを説明しましょう。」

この部屋は今から左右の壁が迫ってきます。全問正解クイズに3問正解すれば壁が止まり、脱出の為のキーボックスチャレンジに1人ずつ挑戦できます。そして1人でもこの部屋から脱出できれば、賞金を获得できます。」

ここまでは通常のルールだが。

管理人「今日は特別ルールです。脱出人数ごとに獲得賞金が変わります。3人脱出成功なら50万円獲得できます。2人なら30万円、1人なら10万円。」

タカトシ「50万円！？」

タカトシは仰天する。

シノ「なぜ最高が50万円だ？普通は何人脱出しても10万円はすだが。」

シノの質問に管理人は、

管理人「それはスポンサーがミモリンのお父さんの会社だからです！」

シノ「ほう、そうか。」

サポートルーム

安形「ミモリン、丹生グループって、気前のいい所あるな。」

美森「いえ、実は私が今回の賞金を上げてくださいと頼んだので。」

椿「丹生の一言で賞金上げるって・・・。」

美森の行動に椿は突つ込むような顔をする。

榛葉「やれやれだな。」

アリア「賞金の額はともかく、ここまで来たのだからぜひクリアしてほしいわね。」

管理人「それでは皆様、幸運を祈ります、バイバイ。」

モニターから管理人が消える。

女ナレ「アンサーボックスに顔と手を入れてください。」

3人はアンサーボックスに顔と手を入れる。

男ナレ「アンサーボックスにはAとBの選択ボタンがあり、ここから3人は全員正解クイズに挑む！」

制限時間は5秒。選んだ答えは全員が決まるまで誰も知らされない。

女ナレ「それでは壁が動き出します。」

ウイーンウイーンウイーンウイーン

脱出開始

シノ「始まつたよつだ。」

そして壁が動き出す。

タカトシ「あつ動き出しましたよー!」

スズ「本当に動いてるわね。」

クイズゾーンの壁が閉じるまで3分60秒ある。

尚、ここからは、シノ シ、タカトシ タ、スズ スと省略します。

女ナレ「それでは問題。」

問題・『会つ』の謙譲語はどういつ?

A・お会いになる B・お目にかかる

4 5

タ「え? どうちだつたつけ?」

1 2 3

テレン！

シノ B タカトシ A スズ B

タ「あつ・・・。」

女ナレ「正解はBでした。」

ブーツ

シ「何をやつている津田！」

タ「すいません。」

ス「次はミスるなよ！」

問題・先にデビューしたのは？

A・豊崎愛生 B・高垣彩陽

5

タ「ええ？」

4

3

シ「多分こっちの方な感じがするな。」

1 テレン！

2

シノ B タカトシ B スズ B

女ナレ「正解はBでした。」

ピンポーン

タ「よかつた・・・。」

女ナレ「1.ポイント獲得です。」

問題・女性が結婚できる年齢は？

A・16歳 B・18歳

5

4

3

タ「これだよな・・・？」

2

1

テレン！

シノ A タカトシ A スズ A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ピンポーン

女ナレ「2ポイント獲得です。」

問題・ヘキサゴンはどういち？

A・五角形 B・六角形

5

4

シ「津田、わかるな。答つたはずだ。」

3

タ「これはわかります。」

2

1

テレン！

女ナレ「正解はBでした。」

ピンポンピンポン

五角形はペントAGON。

そして壁が一時停止する。2m49cm。

女ナレ「3ポイント獲得したため、壁が止まりました。1人分のフックが解除されます。」

シ「誰だ取れる？」

ピ―――

力チャン

フックが外れたのは・・・スズだ。

ス「私のが取れたわ。」

タ「萩村、頼むぞ。」

ス「わかってるわよ。」

女ナレ「スズさん、キー ボックスチャレンジスタートです。」

男ナレ「キー ボックスチャレンジとは、ボックスから特性アームを使い力ギを取り出し、その先にある力ギ穴に差してまわすと、セーフティーゾーンの扉が開く。最終的に3人で3本の力ギを力ギ穴に差して回せば脱出成功となる。但し30秒を過ぎると壁が一気に迫り、脱出失敗となる。」

クイズゾーンからセーフティーゾーンまで10mある。

女ナレ「スズさん、キー ボックスチャレンジスタートです。」

ス「ここは絶対取るわよ。」

ビーーー

そしてキー ボックスチャレンジの扉が開く。

スズはボックスの所へ行く。

シ「慎重のやるのだぞ。」

アームを動かす。

ス「これは掴む角度や入れる位置の数ミリの誤差が大きく影響するわ。慎重に入れないと・・・。」

スズは持ち前のH.Qで誤差を言いながら力ギをアームで掴む。

ス「ゆっくり、ゆっくりと・・・。」

カギを上に上げ、ゆっくりとアームを動かす。

女ナレ「20秒前。」

ス「ここからよ・・・。変に動かすとカギが曲がってしまうわ。」

冷静にカギ穴に動かす。

そしてカギを穴に入れる。

力チャン

ス「入った!」

そしてカギが出てくる。

ス「おっ、いいぞ。」

女ナレ「10秒前。」

そしてスズは鍵を差し込みに行く。

くるり

1番にカギを差し込んだ。そしてスズはセーフティーゾーンに走る。

余裕で行けた。

ス「ふん、こんなものよ。」

そして壁が完全に閉じる。

女ナレ「脱出口のカギが一つ解除されました。脱出までの残りの力
ギはあと2本です。」

カギ？解除 残りあと2本

サポートルーム

アリア「スズちゃん、よく出来たわね。」

安形「かなりうまく計算して入れたな。」

サポートルーム全員はスズを褒め称える。

シ「スズに続けて私たちもカギを取れるようにするんだぞ。」

タ「わかつてますよ会長。」

果たして残り2本のカギも解除することができるか・・・。

続く

壁の間 その2

キーボックスチャレンジで力ギを取り、見事一つ目の力ギを解除することができたスズ。

さあこの調子で次も力ギを取ることができるか・・・。

女ナレ「再び、壁が動き始めます。」

壁が再び動き始める。2m49cmからスタート。

シノとタカトシはクイズのボックスに顔と手を入れる。

シ「私たちもスズに続けて、力ギを手に入れるようにしよう。」

シノはタカトシに言づ。

問題・来年の干支は?

A・へび B・辰

3 4 5

タ「えっと・・・。」

2

1

テレンン！

シノ A タカトシ A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ピンポーン

辰は2013年

女ナレ「1ポイント獲得です。」

タ「あぶない、あぶない・・・。」

問題・さよなら絶望先生の糸色望先生が担任を務めるのは？

A・へ組 B・の組

5

シ「どつちだつたかな・・・？」

4

タ「あまりわからないな・・・。」

2

1

テレンン！

シノ B タカトシ A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ブーツ

シ「津田、すまない。」

タ「いえ、いいです。俺も勘だったから。」

問題・多いのはどっち？

A・RAINBOW B・少女時代

5

4

タ「こっちの方が結構多かったような・・・。」

3

2

1

テレン！

シノ B タカトシ B

女ナレ「正解はBでした。」

ピンポン

RAINBOW 7人 少女時代 9人

女ナレ「2.ポイント獲得です。」

シ「あと1問だな。」

問題・年下はどういち？

A・戸松遙 B・寿美菜子

5

タ「えっと・・・。」

4

シ「外見ではない。2人の年齢をよく思いだすんだ。」

3

2

テレンン！

シノ B タカトシ B

女ナレ「正解は、Bでした。」

ピンポンピンポーン

戸松遙 21歳 寿美菜子 20歳（2011年10月現在）

そして壁が一時停止する。1m44cm。

女ナレ「3ポイント獲得したため、壁が止まりました。1人分のフックが解除されます。」

シ「取れるのは津田か？私が？」

ピ―――

力チャン

フックが外れたのは・・・シノだ。

シ「あ、私だ。」

タ「会長の方ですか！？」

女ナレ「シノさん、キーボックスチャレンジ、スタートです。」

ビーーーッ

そして扉が開く。

タ「会長、あわてないでくださいよ。」

シ「私はこんなことではあわてない。」

シノはボックスの所へ向かう。

そしてアームを握る。

シ「急がずそつとだ・・・。」

慎重にアームでカギをつかむ。

そして上に持ち上げる

次にカギ穴の所に入れようとする。

女ナレ「20秒前。」

ナレの声が聞こえた3秒後。

ストン

無事にカギを入れ、カギが取り出し口から出ってきた。

するといシノは、

シ「津田の負担を軽くするためにもひー回やってみよ。」

タ「えつ？」

サポートルーム

椿「えつ、彼女やるつもつですか！？」

椿はこれに仰天する。

アリア「シノちゃん、ここで2本取りにチャレンジ、果たしてうま

男ナレ「なんとシノ、ここで2本取りにチャレンジ、果たしてうま
くいくか！？」

シノは再びアームを握る。

そしてカギをつかむ。

女ナレ「10秒前。」

そしてカギを動かそうとしたが、うまくカギをアームで動かせない。

そしてシノは最終的に、

シ「これはちよつと時間的にもまずい。」ソリヤめみね。」

シノは2本取りをあきらめ、カギを差し込みに行く。

カギを差し込んで、セーフティゾーンに走って向かう。

そしてセーフティゾーンのついた瞬間の秒となり、壁が動き始める。

シ「さすがにカギを2本取る時間はなかつた。」

タ「やつぱり会長でも2本取りする時間はなかつたか。」

サポートルーム

アリア「やつぱり無理があつたかしら2本取り。」

榛葉「まあ、自分の安全確保のためだつたら仕方ないな。」

女ナレ「脱出口のカギが1つ解除されました。脱出まで残りのカギはあと2本です。」

カギ？？解除 残りあと1本

シ「津田一。あとはお前がカギを取れば脱出成功だ。」

ス「絶対取りなさいよ！でないと私たちまで脱出できないことになるのだから！」

2人の声にタカトシは、

タ（あとは俺か。もし俺が取れなかつたら、会長と萩村まで脱出できなくなるな・・・）

タカトシは脱出までの残り一本のカギに関してのプレッシャーを感じる。

果たしてタカトシは最後のカギを獲得して、桜才学園生徒会に賞金獲得の夢を果たすことができるのか・・・。

続く

壁の間 その3

シノもカギを取り、脱出まで残りあと1本となつた。
全てはタカトシに託された。果たしてタカトシは最後の鍵を取ることができるか……。

女ナレ「再び、壁が動き始めます。」

壁 再始動

再び壁が動き出す。

タ「もう狭くなってきたから、慎重に答えないといと……。」

問題・先に起きた出来事は?

A・オイルショック B・沖縄返還

5

4

タ「えっと、どっちだつたつけ……。」

3

2

1

テレン！

タカトシ B

女ナレ「正解は、Bでした。」

ピンポン

オイルショック 1973年 沖縄返還 1972年

女ナレ「1ポイント獲得です。」

タ「よし、合つてた。」

問題・先にアニメ放送が始まったのは？

A・名探偵コナン B・ポケットモンスター

5

タ「こいつの方が歴史古いくつから。。。」

4

3

2

1

テレン！

タカトシ A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ピンポーン

名探偵コナン 1996年 ポケットモンスター 1997年

女ナレ「2ポイント獲得です。」

タ「あと1問・・・。」

問題・レバーはどういち？

A・肝臓 B・心臓

5

タ「確かこつち・・・。」

4

3

2

1

テレン！

タカトシ A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ピンポンピンポン

そして壁が一時停止する。残り7.6cm

タ「よし、止まつた！これでフックが外れる！」

女ナレ「3ポイント獲得したため、壁が止まりました。1人分のフックが解除されます。」

ピ―――

カチャン

そしてタカトシのフックが外れる。

タ「取れた、これで動ける！」

シ「津田、これは絶対に取るよつにするんだぞ。」

ス「取れないと私たちまで脱出失敗となるんだからー。」

タ「は、はい。（ここで俺がカギを取れなかつたら、会長や萩村まで脱出失敗となる。これは責任重大だ。取れなかつたら2人に申し

訳ない。）

男ナレ「ここでタカトシがカギを取れないと、セーフティゾーンにいるシノとスズも脱出失敗となる！全では、桜才学園生徒会・副会長に託された！」

女ナレ「タカトシさん、キーボックスチャレンジスタートです。」

ビ―――

扉が開き、タカトシはボックスへ向かう。

アームを掴む。

しかし、プレッシャーの為か、うまくカギを掴めない。

タ「そつと、慎重に・・・。」

タカトシはつぶやきながら、なんとかアームでカギを掴む。

そしてカギを上に持ち上げる。

ス「萩村、がんばって・・・！」

タカトシがカギを取れるようにスズは祈っている。

女ナレ「20秒前。」

カギを上に上げ、カギ穴へ動かそうとするが。

タ「ああっ・・・！」

カギが少し曲がってしまった。

サポートルーム

アリア「津田君、落ち着いて・・・！」

アリアも祈るように、手を合わせる。

開盟学園生徒会の5人も静かに見守る。

なんとか、タカトシはカギをまっすぐに戻し、改めてカギを穴に移動しようとする。

女ナレ「10秒前。」

タカトシは、カギを穴付近に持つてきた。

タ「慎重に・・・。」

タカトシは少しづつ、カギを穴に移動する。

そしてカギが穴に入る。

ここに残り3秒になる。

ストン

鍵が出てくる。

タ「よしー！」

タカトシはカギを手に取る。そして差し込み口に向かう。同時に・・

ビーー ビーー

壁が動き始める。

タカトシは力ギを差し込む。そして立ち上がろうとした時、

タ「あああああーー！」

タカトシは壁に押しつぶされてしまった。

シ「津田ーーーーーーーー！」

シノは潰されるタカトシに叫ぶ。

タ「会長ーー。」

そして扉が閉まる。

女ナレ「タカトシさん、脱出失敗です、ただし、脱出口のカギは解除されました。」

ス「と、うと・・・？」

女ナレ「ステージクリアです。」

脱出成功

シ「脱出か・・・。津田の犠牲は無駄ではなかつた。」

サポートルーム

アリア「津田君、ちゃんとカギ差し込んでたのね。」

アリアは拍手する。

安形「ほう、すごいじゃないか。」

安形ら開盟学園生徒会も拍手する。

男ナレ「タカトシは脱出失敗したものも。カギはきちんと差し込んでいたので、他の2人は脱出成功となつた！」

シ「津田には少し感謝しないとな。」

ス「まあ、そのくらいはしないとね。」

女ナレ「それでは、脱出口へどりぬ。」

脱出口が开く。

2人は脱出口から出る。

男ナレ「桜才学園生徒会、見事3rdステージクリア！」

壁の間 その3（後書き）

次で本当に最後です。

結果発表 そして・・・

3人はサポートルームに戻る。

管理人「いやーー、脱出おめでとうーー。3人も安定感あつたよー。」

シノ「まあ、あれは慎重にやつたから出来たものだ。」

管理人「でもお氣の毒なのが、そこ副会長だけが力ガギ取つたのに
つぶされちゃつたってこと。」

周りはタカトシを見る。

タカトシ「で、でも最後俺が決めたから、会長と萩村は脱出できた
んですよー。」

管理人「まあ、あれは女子2人の努力を無駄にしないためにも、必
死の力ガギ取り出しだつただろうね。そこは認めるよ」

アリア「ふふふ。」

アリアは笑う。

管理人「今回の結果、生徒会役員共・桜才学園生徒会チーム、2人
脱出だったので30万円獲得！」

シノ「あつ、そういうえば今回は賞金が多かつたな。」

美森「じゃあ私が賞金を手渡しますよ。」

タカトシ（ちょっと、対戦相手が賞金を出すつて・・・。）

椿（普通、テレビ局が出るはずだろー。）

副会長同士は美森に行動に心の中でツッコむ。

美森は小切手を取り出して書いて、それをシノに渡す。

小切手には￥300・000と書かれていた。

タカトシ「意外とあつさり・・・！」

タカトシは仰天する中、他の3人は、

シノ「ほお、これが小切手か。私初めて見るな。」

アリア「私はよく見るわね。」

スズ「この賞金、何に使うのですか？」

シノ「それは後からのお楽しみだ。」

そして本番が終わって・・・

椿「じゃあ会長、もう帰りましょう。収録終わりましたし。」

安形「そうだな。じゃあみんな帰るぞ。桜才のみんな、いい戦いだ

つた。ここでお別れだ。」

シノ「はい、またいつか顔を合わせる日を待っています。」

敬語で開盟学園生徒会を見送るシノ。

榛葉「じゃあな。」

スズ「はい、また会える機会を。」

開盟学園生徒会はスタジオから出て行つた。

アリア「じゃあ私たちも帰りましょう。」

シノ「そうだな。」

桜才学園生徒会が帰らうとした時、

スタッフ「シノさん、タカトシさん、ちょっとこちらへ来ててくれませんか？」

スタッフがシノとタカトシを呼び止めた。

タカトシ「はあ。」

シノ「アリア、スズ、悪いが先に帰つてくれないか？」

シノはそう言うとアリアとスズは先にスタジオを出る。

アリア「スタッフさん、シノちゃんたちに何か用なのかしら？」

シノとタカトシは別室へ連れてこられる。

シノ「『用件は?』

スタッフ「実はですね・・・。」

それを聞いてタカトシは、

タカトシ「ええ〜! ? 今度はそれに! ? 会長と2人で! ?」

シノ「ほう、これは私も楽しみだな。」

果たしてシノとタカトシがスタッフから聞いた内容とは・・・?

終わり

結果発表 そして・・・（後書き）

これにて、『アニメキャラ限定 脱出ゲーム D E R O !』シリーズはひとまず終わります。

次回から、『アニメキャラ限定 謎解きバトルTORE !』シリーズに突入します。

見ていく皆さん、ご期待ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1056x/>

第5回アニメキャラ限定 脱出ゲームDERO!

2011年11月12日19時11分発行